

11月5日 名古屋港管理組合議会11月定例会 高橋ゆうすけ議員

## 水族館等での太陽光パネルや地中熱利用など 再生可能エネルギーの利活用で温暖化防止を



名古屋港管理組合議会の11月定例会一般質問で、高橋ゆうすけ議員が名古屋港のしゅんせつ土砂の埋め立て問題について質問を行いました。

### 新舞子風力発電所の撤去を見直し存続へ

高橋議員は、3月議会での当初予算で計上された新舞子マリパークの風力発電2号機の撤去費用について質問し、再生可能エネルギーの利活用の拡大を求めました。今回、撤去方針を転換して残す補正予算が提案され経緯や今後の方針をたしました。

今年3月に環境省が「再エネ加速化・最大化促進プログラム」を出したことが契機となって、修理では収支見込みが悪いとの試算を、修繕と取り換えを同時に行うことで収支を見直し、方針転換しました。

### 本気で温暖化防止を

高橋議員は、再生可能エネルギーをより一層利用促進を図ることを求め、水族館などを利用した太陽光パ

ネルや地中熱利用ヒートポンプシステムなどの導入を提案し、温室効果ガス削減に本気で取り組むことを求めました。



風力発電所2号機の経緯

- ・2017年度：故障したギアボックスは、収支見直しから、経費負担を最小限にとどめるため2号機を撤去（2018年1月地元説明）
- ・2018年3月・・・名古屋港管理組合議会で撤去予算を議決
- ・2018年3月・・・国が再生可能エネルギーの主力電源化を目指す「再エネ加速化・最大化促進プログラム（2018年3月環境省）」
- ・2018年7月・・・地方公共団体は取組を加速化最大化する必要があるとする「第5次エネルギー基本計画（2018年7月閣議決定）」
- ・2018年7月・・・地元が「シンボルとして2基とも残してほしい」
- ・2018年9月・・・予防保全の考えで工法を見直し、収支改善に変更、地球温暖化対策から、2号機の補修、稼働継続を行うことに。

## 国が提案した空港沖へのしゅんせつ土砂の埋め立て処分 港内処分の基本計画をないがしろにするのか

名古屋港には庄内川などの河川から土砂などが流入するため、毎年約30万㎡のしゅんせつで航路などを確保しています。さらに国際競争力強化のための増深も行われ、合わせて60～70万㎡をしゅんせつしています。

6月議会での高橋議員の質問に対し、「（港内で発生したしゅんせつ土砂は、港湾計画で位置づけられている埋め立て予定地で）安定して受け入れていくことができるよう取り組む」と答弁しました。

しかしその後、国が「中部国際空港沖を新たな候補地として選定した」との報告があり、「現行の港湾計画との整合性が取れないではないか。港内での埋め立てはどのようにするのか」との追及に「しゅんせつ土砂処分に関する港湾計画の整合は、今後、国などの関係機関と協議しながら、適切に対応し、既存の埋立計画の取扱いも環境変化や関係者との調整を踏まえ、適切に対応する」と答弁しました。

### 漁業者の反対意見に耳を傾けよ

高橋議員は、「埋め立てに容認できないという地元の声をどのように受け止めているのか、反対の声があ

るまま処分場としての計画を進めていくことはしてはならない」とたしました。当局は「漁業にとって重要な海域という認識だ。事業を進める際には、様々な意見に対して十分に説明していく」と答えました。

### しゅんせつ土砂を減らす努力を

高橋議員は「しゅんせつ土砂をいかに減らしていくか、というに力を尽くすべきで、港外の処分場に期待することはやめよ」と指摘しました。



「中部国際空港沖公有水面埋立事業」の環境影響評価方法書（2017年3月）

埋立地の計画容量	3800万㎡
港湾機能の強化や維持により発生する土砂等	3200万㎡
港湾機能の強化や維持により発生する土砂	1200万㎡
ポートアイランド仮置土砂	2000万㎡
中長期的に必要な港湾機能の維持により発生する土砂（30万㎡/年×20年）	600万㎡

名古屋港内のしゅんせつ範囲と埋立予定地

